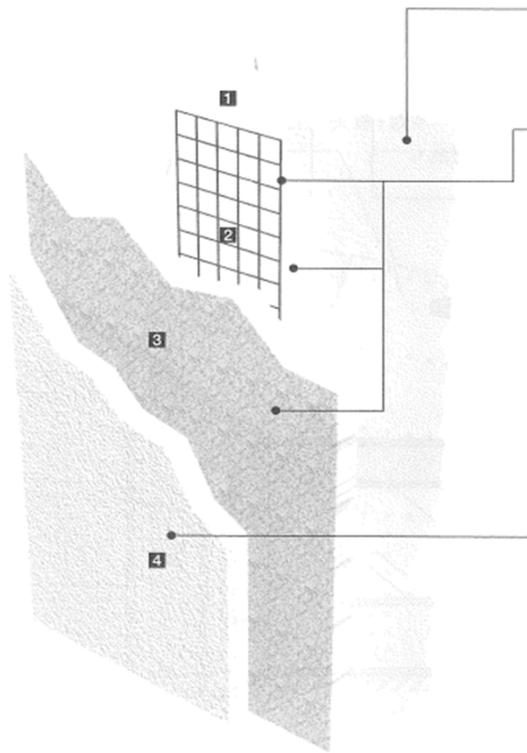


Japan 漆喰

この施工要領書は、標準的な施工方法を説明しています。

石膏ボード下地（平ボード・ベベルボード等）の施工方法



1. 下地の確認

石膏ボードはステンレス、もしくは亜鉛メッキの専用ビスで十分固定されていることを確認してください。

2. 下地処理の施工

- ①ボードジョイント部に(MK目地材)を埋め込んでください。埋め込んだ目地材の上から、ジョイントテープがたるまないように貼り付けてください。
- ②ボード固定用のビス穴にもMK目地材を埋め込んでください。
- ③入隅はジョイントテープを貼り付けMK目地材または硬めに練ったMKプラスターで処理し、十分乾燥させてください。さらに、MKプラスターを塗り付ける際、全面にネット(寒冷紗)を伏せ込みますとクラック防止の効果があがります。
- ④出隅は入隅と同様の処理を施すか、コーナー定木(3mm白)を埋め込んでください。
- ⑤MKプラスターを全面に塗り付け、鏝むらを取り平滑に仕上げてください。

3. 上塗り施工

- ①MKプラスターのバリ(凸部)や塗り残しが無いことを確認し、下地が完全に乾燥していることを確認してください。
- ②見切り、回り縁、柱、床などを汚損しないためにマスキングテープで養生してください。
- ③Japan漆喰を適量鍍板に取り、一度しごき塗り後、追っかけで所定の厚みに塗り付けてください。(塗り厚は約1.5mmです。)※平均塗り付け量: 2kg/m²

使用資材

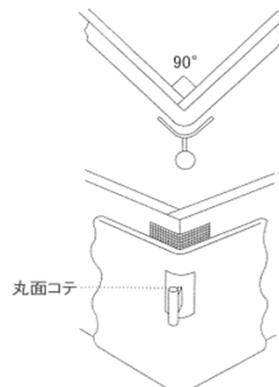
- ①MK目地材
- ②5cm幅ジョイントテープ
- ③MKプラスター
- ④JAPAN漆喰

●平滑仕上げ

③の塗り付け完了後 表面の水引き後に薄手の金鍍で数回おさえてください。

●パターン仕上げ

塗り付け直後もしくは配り塗りしながら、パターン付けを行なってください。



丸面処理

コーナーの部材を入れたくない場合は、丸面コテ、糸面コテなどで仕上げます。

コテを使ったJAPAN漆喰の施工について

コテ塗りに適したやや固めの粘度に調整してあり、コテ押さえ仕上げや各種パターン付けができます。

は
し
め
に

- 3分間程度かくはんしてください。(かくはん機「パワーミキサー」を使用するとよく練り上がります。)

コテおさえ仕上げ

- 金コテで下擦り後、追っかけで締まり具合を見ておさえてください。
- コテ押さえは表面の水が引かないうちに行なってください。
- 仕上げコテは同一方向に行なってください。
- 返しコテは目違いの原因になります。

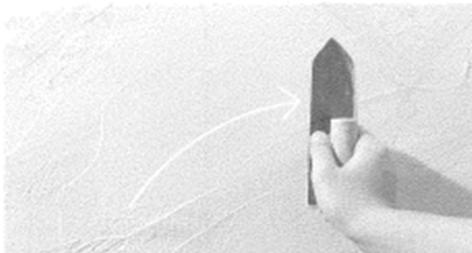


※若干コテ波が残ります。

※矢印は力の方向と強さ、長さを表しています。

パターン付け

- 金コテで下擦り後、追っかけでパターンを付けながら仕上げます。
- パターン付けは表面の水が引かないうちに行なってください。



【ラフ仕上げ】
塗り付けた塗り面の上に、さらに部分的な塗材を盛り付けます。



【スパニッシュ仕上げ】
コテの先端部を浮かせ気味して、後部で縦、横、斜めにおさえながら模様を付けます。



【乱流】
スタイロフォームなどで渦を描くような感じで仕上げます。

施工上の注意

〔はじめに〕

- 施工中および翌日の気温が5℃以下になる場合は施工を中止してください。(白華発生の原因になります。)
- 冬季、採暖する場合、石油ストーブは避け、電気ストーブを利用してください。(石油燃料による採暖では壁が黄変する恐れがあります。)

〔下塗り時の注意〕

- 釘などで錆びの恐れがある箇所は錆び止めを行なってください。
- ボードジョイント部は紙テープ、ガムテープ等は貼らないでください。(水引きに差が生じ、乾きむらの原因になります。)

〔上塗り時の注意〕

- ペール缶開封の際は指などを怪我しないよう十分注意してください。
- 施工中は周辺の部材(見切り、回り縁、巾木、床、柱等)を汚損しないように養生資材で適切な処置を行なってください。(本製品はアルカリ性のため、特に木材に触れるとアクが発生します。)
- 施工時の通風は塗り付け面を急激に乾燥させますので避けてください。
- 本製品を使用の際、3分程度ハンドミキサーで攪拌するとより使いやすくなります。
- 着色する場合は必ず専用着色剤(液体顔料)をご使用ください。(本製品はアルカリ性ですので、市販の着色剤では化学反応を引き起こし分散しない場合があります。)
- 専用着色剤はよく振って、全量使い切ってください。攪拌は3枚羽ミキサーで8分以上行ない、ペール缶底部までしっかり練りこんでください。
- 着色の場合、加水すると色ムらの原因となりますので、加水はしないでください。
- 色によってはコテの当たる回数の違いにより、色ムラ・てかりが出ることがあります。
- コテおさえおよびパターン付けした模様様の修正を行なう際は、必ずコテに付着した水分を取ってから行なってください。(白華発生の原因になります。)

〔施工後の注意〕

- 使用後の器具は水で洗浄してください。
- 残った場合は空気に触れないよう密封し、冷暗所にて保存してください。再度使用できます。
- 施工条件によっては、塗り付け後に気泡が発生する場合があります。施工翌日に仕上げ面を必ず確認し、発生時はスプーンの裏面などを用いおさえてください。
- 施工後はできるだけ通風に配慮し、自然乾燥を行なってください。エアコンや扇風機による急激な乾燥・通風はひび割れの原因になりますので、避けてください。
- 本製品は硬化するまでに時間を要します。夏季で一週間、冬季で二週間が目安となります。
- 着色した場合、落ち着いた色になるまでには期間を要します。条件によっては、1ヶ月程要する場合もございますので予めご承知ください。
- 本製品は100%天然素材を使用していますので、乾きむらによる変色が起こる場合がございます。十分ご理解のうえご採用ください。
- 直射日光や強風が当たらないようにしてください。

白華について・汚れた場合の対応

白華について

消石灰は水にわずかですが、溶解します。(20℃では1リットルの水に対し、およそ1.7g溶解。)
この溶解した消石灰は水分蒸発に伴い析出し、空気中の炭酸ガスと反応し、炭酸カルシウムとなります。

この炭酸カルシウムの生成を白華といい、特に着色した際には壁表面に白い粉を吹いて、華が咲いたように見える現象を指します。

図1は各温度での消石灰の溶解度を示したものであり、特に低温域においては溶解が著しくなることを示しています。

このことは冬季に白華が起きやすいことを示しており、冬季における消石灰系左官材料の施工は避けるのが一般的です。

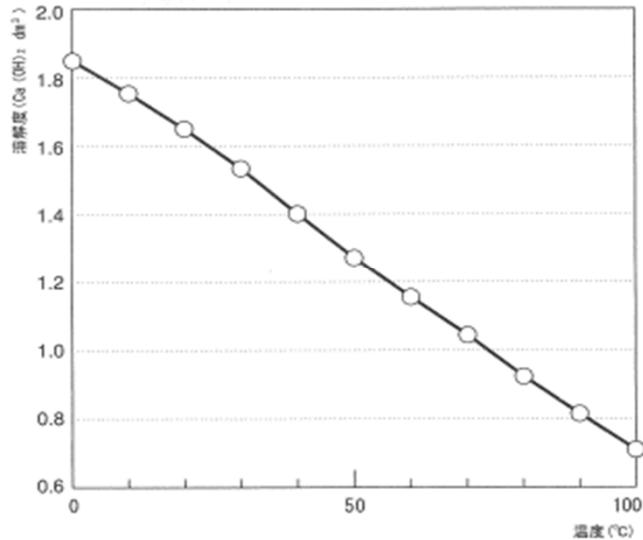


図1 消石灰の溶解度曲線¹⁾

¹⁾ National Lime Association, Chemical Lime Facts(1964)

壁面が汚れた際の対応

- 壁面が汚れた場合は、砂消しゴムまたはサンドペーパー(細目のもの)で軽く擦るようして汚れを落としてください。
- 濡れ雑巾で汚れを落とすのは避けてください。汚れが内部に染み込んでしまう恐れがあります。

MKプラスターの施工方法について

施工手順

ベベルボード(石膏ボード)下地 施工手順

1 下地の確認

石膏ボードはステンレス、もしくは亜鉛メッキの専用ビスで十分固定されていることを確認してください。

2 目地処理

①ボードジョイント部に〈MK目地材〉を埋め込んでください。その際ジョイント部が盛り上がりがないよう余分な材料はかき取って下さい。埋め込んだ目地材の上からジョイントテープをたるまないように貼り付けてください。

②ボード固定用のビス穴にも〈MK目地材〉を埋め込んでください。

3 下地処理

①見切り、回り縁、柱、床などを汚損しないためにマスキングテープで養生してください。

②〈MKプラスター〉を全面に塗り付け。鏝むらを取り平滑に仕上げてください(塗り厚は1mm厚程度)。

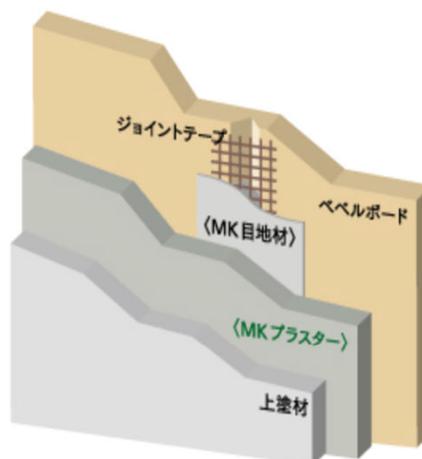
養生時間:24時間 翌日上塗り施工も可能ですが、中1日置いていただいた方が吸水が良くなります。

③入隅はジョイントテープを貼り付け〈MKプラスター〉で処理し、十分乾燥させてください。

4 上塗り施工

①〈MKプラスター〉のバリ(凸部)や塗り残しが無いことを確認してください。

②しっくいを適量鍍板に取り、一度しごき塗り後、追っかけで所定の厚みに塗り付けてください。



MK下地シートの施工方法について

施工要領

下地の確認及び下地処理

- 下地の汚れやホコリなどは取り除いてください。
- 枠、廻り縁、巾木などへのコーキングは不要です。

新規下地

○下地(石膏ボードもしくは木下地)が、ステンレスまたは亜鉛メッキの専用ビスで固定されていることを確認してください。

(ビス間隔は下地材周辺部10cmピッチ程度、受け木部15cmピッチ程度で留められていること ※「JASS15左官工事3.9」)

ビスの頭が浮いてる、もしくはボードの奥までめり込んでいる場合は、留め直してください。

[パテ処理 下塗り]

下塗りパテ材(または上・下塗り兼用パテ材)を目地部、ビス穴、出隅の小口部などに塗り付けてください。

下塗り硬化後、サンドペーパー(#100)で平滑にしてください。

[パテ処理 上塗り]

上塗りパテ材を塗り付け、硬化後にサンドペーパー(#100)で平滑にしてください。研磨後、表面に付着した粉は刷毛などで完全に除去してください。

○入隅に2mm以上の隙間がある場合は、隙間にボンドコークを入れ、平滑にしてください。

○出隅に不陸がある場合は、ヤスリなどで平滑にする、もしくはコーナー補強材を取り付け、パテ処理を施してください。

○石膏ボード端部に割れがある場合は、カットして取り除き、パテ処理を施してください。

○木下地はアクが発生しやすいため、アク止めシーラーを施してください。

